



天寿酒造株式会社

〒015-0411
秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下117
TEL 0184-55-3165 FAX 0184-55-3167
http://www.tenju.co.jp
第66号 2010年9月号

「伝統の〜」とよく使われるが、最近特に急速に消えていってないだろうか？消えてしまえばそれは二度と戻らないものが多い。私の母校には全校応援歌練習があり、新入生はその迫力に震えながら、応援歌や各部隊を必死に覚え、伝統と言葉の最初の洗礼を受けたものだ。我が剣道部には「朝夕振う興安の 剣はついに肉きさみ 血を盛るかめは枯れ果てて 虚栄ふはくの水注ぎ」と古色蒼然とした部歌を試合前最終練習後に道場で陣を組み、斉唱してから出陣？していたのだが、今はかろうじて応援歌練習は残っているものの、各部隊の練習はなくなり、剣道部員さえ部歌を知らないと言つ嘆かわしい現状である。誇るべき全国最多優勝校として開催していた「全校ポト大会」も今は行われていないとの事。「なんと嘆かわしい事か」等と突然言い始めると、あいつも年をとったなと言われそうであるが、運動会も学年が始まった途端、最短時間で行われ、あれもこれも「時間が無い!!」

伝統

代表取締役社長 大井建史

と言う理由でカットされている様だが、はたして「本当か？」と言いたい。受験の為と言えればそれが全て錦の御旗と振り回してしまうのは如何なものか。夏休みまで補習で休み無しの、何処の学校に入っても一緒の様な高校生活を強要するだけで良いものだろうか？野球が勝った時だけ何が何でも全校応援と言つのも却って不思議である。もちろん古い行事を昔のまま全てやればよいと言っているのではない。時代に合わせて変える所は変えと言つのも重要なこと。しかし、守るべきもの・変えるべきものを明確に選定し、一生の誇り・糧となるべき事(精神)を伝統の名の下にきっちり守ってもらいたい。「時間がない!!」だけで無残なものにして貰いたくは無いものだ。



昭和58年に設立した「天寿酒米研究会」は、27年もの歴史を誇る天寿の伝統の一つです。無農薬栽培にも取り組み、より良質の酒米を作り続けています。

「運・鈍・根」等々伝統とすべき言葉もある。また、長年自分を育ててくれた、家風・社風・親の教え・先輩の教えもある。今を担う我々が我が社(家)の伝統を目標として進み、体現すべく努力を怠らず、次の世代の伝統として残して行きたいものだと思つ。



『敬老の日』(9月20日) お祝いプレゼント

米寿の方先着で
88名様に
天寿「百年」720ml
1本プレゼント

米寿の方88名様に 銘酒「天寿百年」プレゼント

今年も敬老の日が近づいて参りました。本年、米寿を迎えられます皆様、誠にありがとうございます。

天寿酒造では、永年この地で酒造業を営んで来られた感謝の気持ちを込め、創業百周年を迎えた昭和49年以来30年間にわたり、由利・本荘地区の米寿を迎えられた方々に、銘酒「天寿百年」をプレゼントし続けて参りました。04年からは個人情報保護法の関係から、この「天寿百年プレゼント」を企画致しました。

今年も下記の要領にて開催いたします。ご応募はご本人はもちろん、お子様、お孫様、ご親戚、ご友人等、どなたでも結構です。『いつまでもお元気で』の気持ちを込めて、応募要項をご確認の上、どしどしご応募下さい。

応募要項

応募者氏名・郵便番号・住所・電話番号・Eメールアドレス
米寿者氏名・郵便番号・住所・電話番号・生年月日を明記の上、Eメール又はハガキ・FAXでご応募下さい。

米寿対象者

大正11年4月～大正12年3月生まれの方

応募締切 平成22年9月16日(木)必着

〒015-0411 秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下117
天寿酒造株式会社「この酒で百歳まで」係



2010年度受賞酒一覧



INTERNATIONAL WINE CHALLENGE
インターナショナル・ワイン・チャレンジ 2010

Silver medal
純米大吟醸「天寿」

Bronze medal
天寿 米から育てた純米酒

Bronze medal
純米吟醸「鳥海山」

INTERNATIONAL WINE & SPIRITS COMPETITION
インターナショナル・ワイン&スピリッツ・コンペティション 2010

Silver medal
純米吟醸「鳥海山」

INTERNATIONAL SAKE CHALLENGE
インターナショナル・サケ・チャレンジ 2010

Gold medal
大吟醸「鳥海」

Silver medal
純米吟醸「鳥海山」

Silver medal
天寿 米から育てた純米酒

Bronze medal
純米大吟醸「天寿」

Bronze medal
天寿 純米吟醸

INTERNATIONAL SAKE CHALLENGE
インターナショナル・サケ・チャレンジ 2010

Silver medal
天寿 純米吟醸

U.S. National Sake Appraisal
全米日本酒飲評会 2010

Gold medal
大吟醸「鳥海」

Gold medal
純米吟醸「鳥海山」

Silver medal
天寿 純米吟醸

U.S. National Sake Appraisal
全米日本酒飲評会 2010

Silver medal
天寿 純米酒

ご意見、ご感想をおきかせください。

日本酒についてもっと知りたい方、天寿についての情報を
知りたい方、ご連絡をお待ちしております。
Eメールアドレス・・・info@tenju.co.jp
HPアドレス・・・http://www.tenju.co.jp
フリーダイヤル・・・0120-50-3165
FAX・・・0184-55-3167

蔵見学希望の方は、準備等の都合がございますので事前にご連絡下さい。
蔵元通信(2カ月に1度奇数月に発行予定)希望の方はご連絡下さい。 無料
メールマガジン(天寿情報)希望の方は、Eメールでご連絡下さい。

お酒の NEWS



U.S. National Sake Appraisal

全米日本酒飲評会

ダブル受賞 Gold medal 2010

大吟醸「鳥海」・純米吟醸「鳥海山」



天寿の歴史

補遺 - 5

補遺 - 5

二代目永吉についての逸話
六代目 大井永吉

二代目永吉は糶と濁酒の生業から清酒製造の事業へと転進発展させた人だから、進取の気性を持ち、戊辰戦争の動乱期をじつと耐え、新政府による諸制度の生まれ変わりを素早く捉えて免許を得るなど時代を読む力や、家老格の佐藤三平に出入りを許され、八森城のお堀から製造場への入れ水を許可されるなど、社交性と政治力も併せもった人物だった。更には信仰心の篤い人だったと思われる逸話がある。

我が家の菩提寺は矢島町の正明山寿慶寺（法華宗）である。開創は寛永四年（一六二七）生駒氏の前の領主打越左近将監盛昌が、法華堂を建立したことに遡る。寛文十二年（一六七二）に矢島藩主二代・生駒左近尉高清の家老市橋定右衛門尉は、内室（三代目藩主生駒親興の従姉）の菩提を弔うため法華堂を再興。内室の法名「高松院寿慶日喜大姉」をもって、寺号を「寿慶寺」とした。元禄十五年（一七〇二）には大本山本能寺（京都市）、大本山本興寺（尼崎市）より正式に寿慶寺開創の許しを得、本

全米日本酒飲評会
2010年 金賞ダブル受賞

今年の8月ハワイ州ホノルル市にて、第10回全米日本酒飲評会（U.S.N.S.A.）が開催されました。全米日本酒飲評会は、「海外流通の困難を克服されている蔵元の方々へ感謝と敬意を表し、米国に在住の方々が良質の日本酒を理解する一助」として2001年にスタートしました。飲評会では、香り、味、バランス、総合評価の4つのカテゴリーで審査が行なわれます。

この度、大吟醸精米歩合40%以下の部に出品した「鳥海」と大吟醸精米歩合50%以下の部に出品した純米吟醸「鳥海山」が見事金賞を受賞しました。

その他天寿 純米吟醸「鳥海山」
純米吟醸・天
寿純米酒の
4点の出品
でしたが、
これも銀賞
を受賞し、
お陰様で出
品酒全てが
受賞出来ま
した。

1.8L 720ml	10,500円	5,250円
1.8L 720ml	3,150円	1,575円

天寿大吟醸雫酒
「鳥海」
10月1日発売

鳥海の人々の皆様に、大変お待たせいたしました。今年3月に袋吊り自然落下させたお酒をビンに入れ、この時期まで低温で熟成させた、鑑評会出品酒と全く同じ扱いのお酒で数量僅少のため、ご予約優先となります。先着順で受け付けますので、品切れの際はご容赦ください。

日本酒度	+2.0 ~ +4.0
酸度	1.1 ~ 1.3
アミノ酸	0.7 ~ 0.9
使用酵母	自社保存株
アルコール分	16.0 ~ 16.9
精米歩合	35%
原料米	山田錦

1.8L 720ml	10,500円 (税込)
720ml	5,250円 (税込)

1.8L 限定 130本
720ml 限定 550本

季節限定酒
天寿純米吟醸
ひやおろし

東京農大花酵母研究会の「ND-4酵母」を使用し、弊社自慢の「天寿酒米研究会契約栽培米美山錦」で醸し上げた、香り高いふくらみのある純米吟醸「ひやおろし」を発売致します。この季節ならではの旬のお酒をご堪能下さい。

日本酒度	+1.5
酸度	1.3
アミノ酸	1.0
使用酵母	ND-4
アルコール分	15.3
精米歩合	60%
原料米	天寿酒米研究会 契約栽培米美山錦

1.8L 720ml	2,835円 (税込)
720ml	1,418円 (税込)

能寺役者の好善院日行上人が開祖となった。この時、矢島藩主三代・生駒親興より寺領と扶持を寄進された。（寿慶寺開創縁起）

慶応四年（一八六八）に起こった戊辰戦争では、寿慶寺は矢島藩の陣所となる。市中と街道を一望できる高台である境内地が、陣所として格好の場所であったのだ。激しい戦火によって本堂は全焼したが、三十番神堂は辛くも類焼を免れた。

この合戦の最中に、時の住職・十三世妙寿院日侃上人は、戦火を潜り抜けて、三宝尊、日蓮聖人像等をはじめ、過去帳、古文書類を運びだしたと伝えられている。その諸尊像は今も大切に須弥壇に祀られている。（第二十世佐々木正純現住職）

『戊辰戦争の際に持ち去られたと考えられていた什宝・妙法蓮華經八巻が昭和六十一年（一九八六）に、百十八年ぶりに寿慶寺のもとに還るといふ出来ごとがあった。昭和十年（一九三五）に、山形県遊佐町の本願寺（浄土宗）に、この妙法蓮華經が寄贈されたのだという。本願寺に寄贈されるまでの経緯は不明であったが、本願寺側が寿慶寺に返却を希望していることから、地元の郷土史家が尽力し、

「還ってきた法華經」

百十八年ぶりの帰山が叶ったのであった。この妙法蓮華經八巻は、第三世註明院日恵上人が享保二十年（一七三五）に求めた。その後第十二世大円院日萬上人が経巻を入れる箱を求め、文久二年（一八六二）には、檀家の大井永吉氏が錦の表具を寄付したと第一巻に記述されている。

この逸話は以前秋田魁新報にも「還ってきた法華經」の見出しで掲載されている。

矢島町の歴史の移り変わりに関わりをもつ寿慶寺。そこに代々檀家総代として我が家も歴史の歩みに係わってきたのである。